

2020 教育改革に対応するための新たな保幼小連携プロジェクト

常葉大学 保育学部 山本睦ゼミ

指導教員：教授 山本睦

参加学生：西村悠、海野明日香、杉本早弥
村松花帆、長田真穂

1. 要約

2020 年の学習指導要領の改訂により、新しい学力観とその教育方法について、教育関係者間での認識の共有が急がれている。一足先に始まった幼児教育改革では、新たな学力観の基礎である「非認知能力」に注目が集まってはいるものの、従来の保育実践の中での能力育成が難しい状況である。さらに、子どもたちの「新しい学力」を一貫した教育で育むためには、保幼小の連携が不可欠となる。そこで、保幼小の連携をとる契機となるよう、教育関係者へのインタビューの内容を含む YouTube 動画の作成・配信を行った。YouTube 動画は裾野市のチャンネルから 2 本配信し、1 本目は「教育改革における学びの変化」、2 本目は「アクティブラーニングを成功する秘訣とは？」と題して、教育・保育関係者だけでなく広く市民を対象に問題提起を行った。1 本目の動画では 801 回再生、5 件のコメント、2 本目の動画では 464 回再生、1 件のコメントをいただいた(2021 年1月13日現在)。YouTube 動画の作成にあたって行ったインタビューや、動画に対するコメントをもとに、保幼小で連携をとって教育改革に対応していくための対策について提言した。

2. 研究の目的

本研究では、裾野市の職員の方、保幼小の先生の方々にインタビューにご協力いただき、それをもとにテーマに関する動画を作成し、YouTube を通して配信を行なった。2020 年の教育改革から注目される学力観についてスライドを作成し、それに対する様々な声をもとに教育現場や子育て世代の保護者に対して教育効果や改善について検討を促すことを目的とする。

3. 研究の成果

3-1. 当初の計画

A 案：月一回ペースで公立園、小学校教員、保育者を対象した勉強会を開催する。勉強会では、学生が論点を用意し、それに沿った討論を行う。勉強会では現場の問題点を学校現場だけでなく行政、学生と共有する。学校現場での公開実践を行い、学生が教育効果分析をし、実践の効果を学校現場にフィードバックすることを目的とする。

B 案：「新しい学力」に焦点を当てた動画を作成し、YouTube 裾野市公式チャンネルにて配信を行う。動画にご協力していただいた方に活動報告書を送り、フィードバックすることを目的とする。

3-2. 実際の内容

今年度は、コロナ禍により当初予定していた A を中止することになってしまった。そこで、B を採用し YouTube を通した動画配信をすることに至った。

3-2-(1). YouTube 動画 1 本目 『教育改革における学びの変化』

2020 年に改正された学習指導要領によって、求める 3 つの資質・能力として「学びに向かう人間性」「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」と上げ、以前の学習指導要領を明確化するものとなった。文部科学省が目標とする「生きる力」の育成と幼児期との関連として「非認知能力」に注目をし、「生きる力」の現状について常葉大学保育学部山本睦ゼミ卒業生の森本大地さんに「ゆとり教育によって生きる力は身についたのか」について講義をしていただいた。そして、ゆとり世代の「生きる力」の習得が低いことから現代の若者を大人はどう見ているのかインタビュー調査を実施し、「生きる力」と「非認知能力」の関連についてまとめた。

YouTube 再生回数 2021 年 1 月 13 日現在 801 回

3-2-(2). YouTube 動画 2 本目 『アクティブラーニングを成功させる秘訣』

新学習指導要領の導入より注目を集めているアクティブラーニングについて常葉大学保育学部山本睦ゼミ4年の長田真穂さんに「保育者養成課程のアクティブラーニングの実態」について講義していただいた。教育現場の取り組みを知るため、保育園・幼稚園・小学校に勤めている先生方に協力していただき、インタビュー調査を実施。アクティブラーニングを成功させるために「自発性」、「協調性」、「役割取得能力」を含む「非認知能力」が重要だとまとめた。

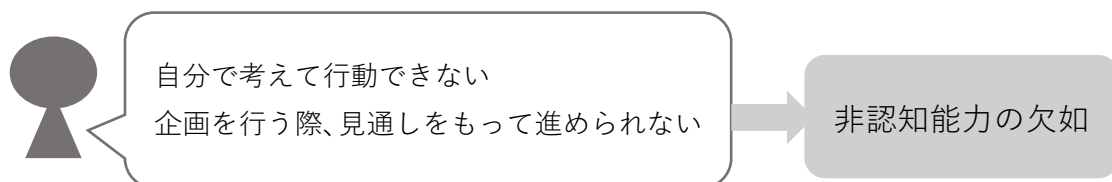
YouTube 再生回数 2021 年 1 月現在 464 回

4. 今後の改善点や対策及び地域への提言

YouTube 動画するにあたって行ったインタビューや、動画に対するコメントから得たフィードバックによって明らかになった地域の現状から以下の改善が必要だと考える。

4-1. YouTube 動画 1 本目 『教育改革における学びの変化』

◎最近の若者に対する印象についてインタビューを実施

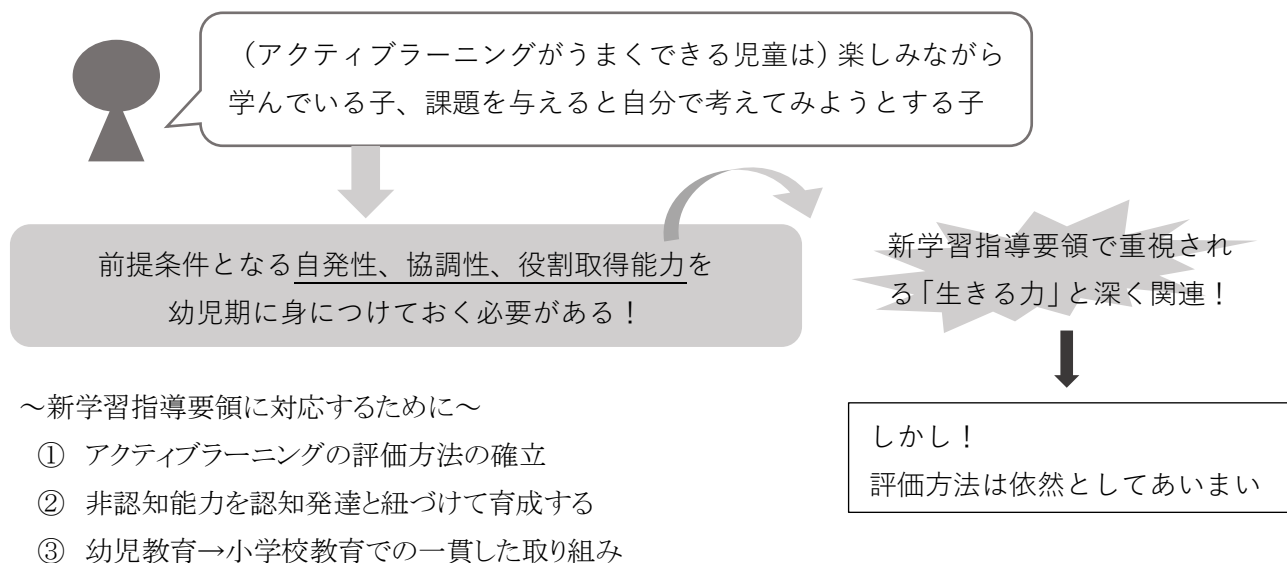


～子どもたちの非認知能力を育成するために～

- ① 親や教師の過干渉を是正する
- ② 幼児期から非認知能力を育成する働きかけを行う

4-2. YouTube 動画 2 本目 『アクティブラーニングを成功させる秘訣』

◎教育改革について小学校・保育所・幼稚園の教員にインタビューを実施



4-3. YouTube 動画の広報について

YouTube 動画の配信にあたって、裾野市の全保育園・幼稚園・小学校に YouTube 動画のリンクを貼付したチラシの配布を行った。さらに、市民の方にも教育改革について知っていただくため、裾野市 83 の自治会でチラシを回覧していただいた。しかしながら、動画の再生回数とチラシの配布枚数は引き合わない結果となった。一方で、動画に対する低評価は一件もつけられておらず、視聴者の動画に対する満足度は高かったことが推察される。そのため、保幼小連携の契機づくりという目的を達成するためには、より動画視聴に結びつくような広報活動が必要であったと考えられる。

5. 地域からの評価

動画を配信するにあたり、静岡県内各市町村の保育園、幼稚園、小学校にチラシを配布した。そのため、多くの方に動画を視聴していただくことができた。

フィードバック方法として、ご協力していただいた裾野市役所、保育園、幼稚園、小学校に調査報告書を送付する。

また、視聴した方から多くのご意見をいただくことが出来た。保育者の方だけでなく、保育者を目指す学生や理系の学生からもコメントが寄せられた。

- ・社会に出てから働きにくさ、生きづらさを感じることもある。
- ・厳しい社会の中で生き抜くためには、生きる力が必要だと感じた。

といった内容のコメントが多かった。過去や現在の自分と比べながら視聴する方が多く、視聴者に寄り添った内容の動画を作成できたのではないかと考える。他にも、幼児期からメタ認知を含む非認知能力を育てる重要性を知っていただけたのではないかとと思う。特に保育者の方からは、これか

らの幼児期の教育、保育について改めて考える機会になったといった声が寄せられたため、今後は、非認知能力を幼児期から育てるための介入を具体的に考えていきたい。(以下コメント抜粋)

・『生きる力がなく、社会に出てから働きにくさとか生きづらさを感じたこともありました。インタビューの話では、耳が痛い話ばかりでしたが、この動画を見て、幼児期の非認知能力の大切さに関して、保育者として改めて責任を感じました。メタ認知や非認知能力を育めるように、子どもたちがどう育っていくのか、どう育って欲しいのか見通しを持って保育をしていこうと思いました。』

・『社会人として自分自身、生きる力が大切だと感じる場面はたくさんあります。また保育者として保育の現場で非認知能力を育てることの大切さも感じていたのでとても共感がもてる内容でした。スマホやテレビで社会との関わりが少ない子がとても気になります。保育の現場の中でいかに環境と関わりながら学ぶ機会を作れるかが保育者として問われ、難しさを感じます。自分で選択したり、考えたりする経験を通じて学んでいく過程を楽しめるようまずは自分の学び、保育を見直したいと思います。』

6. 引用文献

- ・文部科学省.2019.【総則編】小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 1.(1-2).2-5.
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_001.pdf
- ・文部科学省.2011.学習指導要領の変遷.学習指導要領の理念.3.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryu/_icsFiles/afieldfile/2011/04/14/1303377_1_1.pdf
- ・文部科学省.平成 29・30 年改訂学習指導要領のくわしい内容.
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm,(参照 2020-10-7)
- ・文部科学省.学習指導要領「生きる力」.
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm
- ・溝上慎一(2014) アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換 東信堂